

口腔と全身の健康の関係を再考する  
- 深井保健科学研究所 特別セミナーに参加して -

古田 美智子

Reconsidering the relationship between oral health and systemic health  
- After attending the seminar in Fukai Institute of Health Science -

Michiko Furuta

深井保健科学研究所 特別セミナーは「歯の喪失」をテーマに開催され、歯の喪失を様々な視点から考えることができる良い機会だと思い参加いたしました。歯科医療に携わっている者にとって、「歯の喪失」を防ぐことは大きな目標の一つであり、予防歯科を専門に研究している私にとっては最重要課題になります。今回のセミナーを通して、印象に残った提議がありましたのでその点を中心に述べたいと思います。

歯の喪失と全身の健康の関係について、歯が多く残存しているから全身が健康であるのか、または逆に、全身が健康であるから歯が多く残存するのか、という議論がありました。過去の調査研究から、歯の喪失が少ない者は癌や心疾患などの死亡率が低く、生存年数が長いこと、また、認知症になる者や要介護状態になる者が少ないことなどが分かっています<sup>1,2)</sup>。これは、残存している歯が多いと、食事摂取が十分にできるため低栄養を防ぐことができ、免疫機能の低下を防止して病気の治癒・回復を望めるからだと考えられます。また、歯を喪失する主な原因はう蝕と歯周病ですが、

歯周病に注目すると、歯周病がある者は糖尿病や心疾患などの全身疾患にかかりやすいことが分かっています。このように、口腔が全身の健康に影響するという視点は、歯科医療関係者にとっては歯が重要であることを訴えるために考えやすいものです。しかし、全身の状態が健康であるから歯が多く残存するという視点で考えると、例えば認知症になってしまうと、歯磨きができず口腔衛生状態が不良となったり、歯科医院に行くことが困難となって歯科治療が行えなくなり、歯を喪失するリスクが高くなることは容易に想像できます。歯の残存と全身の健康状態に関係があることが分かっていると、一方が原因で他方が結果であるという因果関係を考えてしまいがちになってしまいますが、両方が影響しあう共変関係である視点が必要であることをセミナーを通じ学びました。

また、その他に印象に残った議論として、歯の喪失状況は世代によって様相が異なるため、世代別に検討を行ったほうがよいという内容です。歯科疾患実態調査によると1981年で60～64歳の一人平均現在歯数は13.7歯だったのに比較し、2005年では21.3歯となっており、戦前世代と戦後世代では歯の喪失状況が異なっていることが明らかです。このように、戦前世代に比べ戦後世代で歯の喪失が少なくなった要因としては、歯科医療が普及したことが大きく関係していると議論がされていました。

【著者連絡先】

〒812-0044 福岡県福岡市馬出3-1-1  
九州大学大学院歯学研究院口腔予防医学分野  
古田美智子  
TEL : 092-642-6353 FAX : 092-642-6354  
E-mail : mfuruta@dent.kyushu-u.ac.jp

現在、歯科医療環境が整ってきてはいても、80歳で20歯以上有する者の割合は25%であり<sup>3)</sup>、治療技術が進んでも歯の喪失をさらに防ぐには限界があると考えられます。歯科医療は治療中心型から予防中心型に変わりつつあると言われており、歯科診療所で個人を対象とした歯の喪失の予防対策は広まってきています。一方、集団を対象とした予防対策として、小学校でのフッ化物洗口が行われてきていますが、一生を通じ継続した公衆衛生対策はないというのが現状です。う蝕の公衆衛生対策としてはフッ化物の利用を勧めることが考えられます。しかし、歯周病の公衆衛生対策はほとんど考えられていません。歯周病のリスク因子は喫煙、食事、飲酒、ストレスといった慢性疾患と共通のものであることを考えると、全身の健康を増進させることが歯周病の予防にもつながると思われました。さらに、今回のセミナーから学んだ、口腔の健康は全身の健康と共変関係であるこ

とを考えると、全身の健康を増進させると口腔の健康が増進し、口腔の健康が増進すると全身の健康がさらに増進するといった、健康の循環が機能するような公衆衛生対策を作りあげることが必要になってくると考えられました。

#### 文 献

- 1) Shimazaki Y, Soh I, Saito T, et al. Influence of dentition status on physical disability, mental impairment, and mortality in institutionalized elderly people. *J Dent Res* 80 : 340-345, 2001.
- 2) Arrive E, Letenneur L, Matharan F, et al. Oral health condition of French elderly and risk of dementia : a longitudinal cohort study. *Community Dent Oral Epidemiol* 40 : 230-238, 2012.
- 3) 厚生労働省. 平成21年国民健康・栄養調査結果の概要.  
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000000xtwq.html> (平成23年12月10日アクセス)